



鳥取市総合教育センターだより

第2号 令和8年7月13日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

数字では測れないもの

先日、「特別活動主任研修」で、文部科学省の和久井調査官のお話を伺いました。テーマは「自治的能力の育成」。子どもたちが、自分たちの生活の課題を見つけ、自分たちで話し合い、自分たちの力でよりよい学校生活を創っていく。「自治力」を育てることの大切さを改めて考える時間となりました。

昨年度、小・中学校の不登校児童生徒数は 35 万人を超えました。ICT の活用はますます進み、生成 AI によって授業の姿も大きく変わろうとしています。そんな時代だからこそ、講義の中心にあった、人間らしい営みは、とても大切なことと改めて感じました。「話し合うこと。」「折り合いをつけること。」「友達と一緒にによりよい答えを探すこと。」「等々。勇気を出して手を挙げたことや、失敗しても最後までやり遂げたこと等、そんな小さな出来事の一つ一つが、子どもの心を豊かに育てています。

これは、学校だからこそ育てられる力なのです。そして、「みんなでよりよく生きるとはどういうことか」を日々の生活の中で学ぶこと。こうした経験の積み重ねが、社会を生きていく力となっていくのだと思います。

技術は進歩し続けます。しかし、人を理解し、人と協働し、よりよい社会を創っていく力は、人との関わりの中でしか育まれません。学校には、そのかけがえのない学びがあります。「どうして学校へ行くの?」「勉強は何のためにするの?」その答えは、一つではありません。しかし、和久井調査官のお話の中には、その答えにつながるヒントが数多く散りばめられていたように感じました。

教育委員会で行政の仕事をしていると、常に求められるのは成果のあった「数字」です。成果指標は何であったのか。何がどう伸びたのか。事業の拡充を目指し予算要求をする場合、この「数字」は必須となります。この「数字」と、教育という特殊な分野の達成度とはいつもジレンマが生じます。

「自治力が付いたことを、どんな物差しでどう測るのか。」「主体性が育ったことを、何で証明するのか。」「何が何パーセント向上すれば、本当に教育が成功したと言えるのだろうか。」「等々、とても難しい問題です。

もちろん、不登校の数字や問題行動の数字、学力の状況等は、教育を考える上で大切な指標です。私たち行政に携わる者は、数字から目を背けることはできません。しかし一方で、教師という仕事は、昔から、物差しもなく数字では測ることさえ不可能なものを何よりも大切にしてきました。

放課後、職員室で「あの子、今日いい顔をしていたね。」「そうそう、うちの学校のめざす顔はあの顔だよ。」「等と、何気ない会話があります。ところが、誰もその「いい顔」を定義できません。また、数値にもできません。けれど、教師たちは不思議なくらい、その感覚を共有しています。具体性がなく、抽象的な感覚に対して一言で通じ合える。それは、長い年月、子どもたちと向き合い続けてきた教師だからこそ持てる専門性なのだと思います。

そんなプロフェッショナルの集団に対して、行政は何ができるのだろうかと常に考え悩みます。数字を大切にすることも必要です。成果を検証することも欠かせません。けれど、数字だけでは決して見えない子どもの成長があり、教師が大切に守り続けてきた価値があります。その価値を信じ、学校が安心して子どもたちと向き合える環境を整えること。それこそが、私たち教育行政に携わる者の役割ではないかと思っています。学校が大切にしてきた「数字では測れないもの」を、無理やり測ったり、思うような数字でないからと言って、学校ならではの大切な感覚をぶれないようにしていきたいと思います。どんなに時代が変わっても、その感覚だけは決して見失いたくありません。

子どもたちは、私たちが思っている以上に、大人のまなざしを感じています。「見ていてくれた」「認めてもらえた」という経験は、自分を信じる力となり、次の一步を踏み出す勇気へとつながります。

教育センターは、学校とともに、子どもたちの「今日」を大切に教育を支えていきたいと考えています。一人一人の笑顔が増え、その笑顔が学校全体へと広がっていくことを願っています。

鳥取市総合教育センター 所長 狩野 司



今年度は初任者として26名の教諭と養護教諭を1名を新たに迎え、3か月が過ぎました。

鳥取市では、第1回目の初任者・新規採用養護教諭を対象とした研修を4月に実施しました。若手教員に向けて、子どもたちへの対応など教師としての基本姿勢に係る研修を行っていますが、休憩時間等の会話など、顔をあわせてコミュニケーションをとることで同期の横のつながりをつくることも大事だと考えています。そのため初任者研修、新規採用養護教諭研修は集合して研修を実施しています。

また、5月中旬からはそれぞれの学校の訪問も行っています。各校で実施されるメンター研修では、初任者を中心に据え、若手教職員がメンターとなって実施していただいています。メンター研修ではメンターもメンティーも意見交換を行うことで新たな気づきや学びが生まれているという嬉しい報告もいただきました。今後も各校でメンター研修を含め、初任者育成に向けた取組の推進をお願いします。

初任者研修①（集合研修）

アイスブレイクでは、自己紹介のあと、グループに分かれて新聞タワーを作りました。活動を通して、働き始めて感じているやりがいや悩みなどについても話し合い横のつながりも深まりました。また、狩野所長の講話や指導主事より「教員としての心構え」についての講義を受け、心を新たにしていました。



＜初任者の声＞

○初任者同士で交流する時間はとても有益だと感じました。自分の話や悩み、疑問なども共有できとても良かったです。これかもこうした交流の時間を大切にしたいと感じております。

○所長の講話の中で「やたらに読む、やたらに書く、やたらに聞く」という話が印象的でした。たくさんのことをインプットするとともに、自分自身が学ぶ姿勢を大切にしたいと感じました。

○新聞紙タワーを作る活動は、同期とのコミュニケーションの場を増やしたり、親睦を深めたりするきっかけになりました。



初任者研修②（学校訪問）

初任者・新規採用養護教諭への学校訪問では、各学校でそれぞれの先生方が児童生徒とかかわり、試行錯誤しながら授業や保健室経営に取り組んでいる様子を見ることができました。

授業では、発問やねらい、子どもたちのゴールイメージとはどのような姿なのか校内の先生方の指導を受けながら授業実践をしておられました。

各学校ではメンター研修だけでなく、日々の生活の中で若手教員育成に向けた支援体制がしっかりととられていました。今後も校内外の研修を活用しながら、初任者を含む若手教職員育成に向けた取組を継続して行っていきます。



若手教員支援事業

鳥取市では、退職校長会の皆様のご協力のもと、若手教員支援事業を行っています。6月末には「とつとりのまつり体験」を実施し、14名の若手教員の先生方にご参加いただきました。鳥取の伝統文化に触れるだけでなく、日頃の情報交換をすることで、横のつながりが深まったように思います。第2回も実施する予定です。多くの先生にお集まりいただき、鳥取市の教員の横の広がりが生まれることを期待しています。



サポートルームの取組について

鳥取市教育委員会では、不登校や不登校傾向の児童生徒の学びの場や居場所としてサポートルームを設置しています。サポートルームでは、学校と連携しながら、通っている児童生徒の状況に合わせて学習を支援したり、様々な社会体験・自然体験などを通して、人とのかかわりを作ったりしています。通所している児童生徒の状況に合わせて、利用時間や活動内容を選択できるように支援しています。

本コーナーでは、サポートルームの活動内容（1日の流れや特色など）を紹介していきます。

自主学習

午前中は、50分間×2コマを自分で決めた教科内容に沿って自主学習を行います。パーティションで区切るなど、個人の状況に合わせてスペースの工夫もしています。



【主な取組内容】

漢字・計算ドリルやプリント、問題集の他、タブレットを使った学習等

学び合い活動学習（月・水・木曜の午後）

生活体験を広げるとともに、集団で活動することを通して、集団への適応力や社会性を養うことを目的としています。木曜日は体育館を利用したスポーツ活動です。



ちまき作り



スノーグローム作り



光の箱作り



スカットボール
(ニュースポーツ)

サポートルーム「すなはま」一週間の予定表

		月	火	水	木	金
午前	9:30~9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める				
	9:45~10:00	朝の会・ラジオ体操				
	10:00~10:50 ①	自主学習	ふれあい活動		自主学習	
	10:50~11:00	休けい		休けい		
	11:00~11:50 ②	自主学習			自主学習	
					11:00~11:20 自主学習	
11:25~11:35 そろじ						
				11:40~11:50 読み聞かせ		
11:50~12:00	すなぐまタイム			すなぐまタイム	ふりかえり	
午後	12:00~13:00	昼食（お弁当）・休けい				12:00 帰宅
	13:00~14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ （体育館）	
	14:10~14:30	自由活動・ふりかえり・帰宅				

* 金曜日の午後はチャレンジ教室（個別に設定）

* 毎月最終金曜日は閉室

ふれあい活動（原則毎週火曜日）

地域の社会施設や人材を活用し自然や社会、人とのふれあいを重視した体験を通して地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることを目的としています。



梨の袋かけ



調理活動